



# 学校だより

6月号

横浜市立六つ川台小学校

令和2年6月1日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>  
E-mail:[y3mutukd@edu.city.yokohama.jp](mailto:y3mutukd@edu.city.yokohama.jp)

## 待つ大切さ

副校長 薄田 秀明

学校が一斉臨時休業になって3か月が過ぎました。その間に世の中の状況は変化し「新しい生活様式」の実践例が示され、これまでの生活様式や仕事のスタイルを見直すきっかけとなりました。子どもの声が響かない学校は何とも寂しいものでしたが、校庭開放で遊びに来る子どもたちの元気な声を聞くと改めて「これが学校の本来の姿だよな。」と思って眺めていました。しかし、「この姿も変わっていくのかな。」と思うとこれまで「あたりまえ」と感じていたことがそうでなくなる世の中になるのかもしれませんが。(すでになっていることもあります。)

ある時計メーカーが行った意識調査によると、「スマートフォンでネット上の情報につながるまで、どのくらい待てますか。」という問いに6割以上の方が「10秒以内」と答えたそうです。また、コンビニエンスストアのレジでは、1分間待たされると、3割を超す人が「イライラを感じる」というのです。近年のIT技術の進歩により、生活は格段に便利になったと感じる人は多いと思います。スマホで調べものをすればすぐに「答え」が分かったり、インターネットで買い物をすれば当日に届いたり、これらも何年前かは、「いずれそうなるだろう。」「そうなるといいな。」という未来の話に夢を膨らませていたことです。現代は、「待たなくてもいい時代」と言えるかもしれません。

ただ、「待つ」ことをすぐに不便と捉えるのはいかがなものでしょうか。ある精神科医は、「精神的に裸となった自分と対峙しなければならないのが“待つ”という宮み」と指摘しています。思い通りにならない事態になっても、感情的になったり、あきらめたりせず、一度立ち止まって大きく深呼吸してみるのもいいでしょう。「待つ」ことで状況が変わる場合もあるかもしれません。「待つ」という行為は、精神的な成熟をしている証なのかもしれません。授業でも教師の問いに子どもたちはいろいろ考えをめぐらせています。教師になったばかりの私も子どもの発言を待ちきれずに次々と話していたことを反省することがありました。それは子どもたちの思考を止めてしまい、子ども自身で考える時間を取り上げていたことに気づかされました。

新型コロナウイルス感染拡大への一人一人の対応にも、忍耐強く「待つ」ことが求められています。現在の困難に無関係な人は一人もいません。ここにいるみんなが当事者として、賢明に粘り強く、自分とまわりの人たちの健康を守り抜くことが未来につながると信じましょう。